



老いてなお、よき導師に
恵まれて

香川県 豊永 緑

このたび宗教法人生長の家
の雑誌『光の泉』十二月号誌
上、横浜善光寺の黒田武志ご
住職さまと初めて出会わせて
いただく法縁にあずかりまし
た。それぞれ宗教、宗祖は違
つても、争うのはおかしい。
みな、一つの幸せに向かう道
なのだからというような生長
の家創始者谷口雅春先生と同
思想のご住職さまのインタビ
ュー記事、拝読させていただきました。
深く感動いたしました。

また、ご住職さまの若い日
のご苦勞のほど、読みますむ
につれ、涙が浮かんでくるの
を止められませんでした。ど
んな逆境も苦しみも、すべて
心の糧としてしまいう偉大な平
成の名僧を見つけさせていた
だいた気がいたしました。雨
の中をとぼとぼと歩かれ、つ
いに涅槃金まで使うほどに窮
されたお姿は、私もご住職さ
まほどの厳しさではなくとも、
似たような体験をしたこと
があるのです、どれほどお辛
かったですであろうと胸が詰まっ
ていました。また、自分を騙
した男に逆に感謝するお心の
尊さ…。

失礼ながら、僧界の一部では地に落ちた末世のような時代になったといわれることもある現代で、ご住職さまのようなお方がおられることを知ることができ、これ以上の喜びはありません。老いてよき導師に恵まれた幸せでいっぱいでございます。

「光の泉」を読んで以来、私の話を聞いてくださる方はこの方以外にいない、と毎日思いつめるようになりました。誌上には詳しい住所、連絡先等が記されていないなかったので、お手紙を差し上げたいけど、どうしたらいいものか途方にくれ、とうとう勇気を

持つて出版社に問い合わせ、教えていただいた次第でございます。

思い起こせば、私の女としての若き日々は、精神的な苦痛をなめ尽くした辛いことばかりの繰り返しでございます。何度自殺の誘惑に負けそうになったか知りません。三度の家出を続け、暗い夜道を行くあてもなくとぼとぼと。死んでしまつたらどんなに楽だろうと思ひながら。そんなとき、私はある青年から、五錢の小冊子を買ったのです。生長の家の小冊子でした。当時の私の、それはまさに金字塔でございます。み教えを

生きる尼僧にもなりましたが、それを返上し、母なき四人の子の新しい母親にもなりました。み教えのままに生きることを誓ってからは、数々の奇跡の体験もし、あの苦痛の日々は本当にあつたのだろうかという思いがするほどの幸せになれたのでございます。

そしてさらにはこんなすばらしいご住職さまのみ教えにも触れることができた…。神さまが、私にまた一つの幸せを与えてくださったような気がします。

きっと私もまもなく、人生のゴールインを迎えることので

実家で気分転換をしたり、墓参りをして先祖に祈ることも多くなってきました。

宗教にも今、たいへん関心を持つています。これも「心の安らぎ」を求める気持ちが強くなっていることと関係がありそうです。今度一度、坐禅を組んでみたいと考えています。その折にはぜひご教示いただきたたく存じます。

自然の流れのままに

意義ある人生を

兵庫県 東郷 優

「始め有らざるなし、克く終わり有るは鮮し」と申しま

すが、とにかくにもこの春無事に、三十七年間お世話になった株式会社ナリス化粧品を退社いたしました。終わりをめでたく結ぶことができたことを本当に感謝しております。

ふり返れば、ナリスに勤めさせていただいてよかったと思えることが数多く思い出されます。仕事も楽しかったし、すばらしい人との出会いもたくさんありました。先代社長との出会いは、まず一番にあげられます。「ああ、この人なら信じてついていける」と確信して、ともに仕事ができただことは、一生忘れることはで

きないと思えます。職業こそ違いますが、黒田武志先生との出会いも、私の人生の貴重な宝です。初めてお会いしたときの印象を今でもはつきり覚えています。「初対面だというのに、なぜかとても懐かしい思いがする人間がいるものだ。まるでずっと以前から、目に見えない何らかの手で出会わせていただけたような気がする」と感じたものでした。そして、会うたびに、先生に強烈に魅きつけられていったのです。「何という奥深い男だろう。強く激しく情熱的。なのに、その中に繊細な感じやすさと優しさを兼ね備えてい

る」。この一見不条理な性格の複合性が、きつとすばらしい魅力となつていたのでしよう、先生はあれよあれよという間に大きくなられました。

そんな黒田先生に最後にお別れのご挨拶をいただいて、とても嬉しく感じました。ナリスの苦難時代を偲び、そして、現代は繁栄に踊り忘却されがちな、*「続ける」ということ*の大切さを語られました。私も最後までナリスが好きでしたし、今でも死ぬほど好きです。

退社するとも私は、「四月には、桜が咲くと同時に新入社員もたくさん入ってきます。

これから咲くもの、散つていくものがあるのは自然の流れ。その流れのままに、退めさせていただきます」と最後の挨拶をいたしました。「会社にも六十歳前後の人がたくさんいます。よくいってくれました」と喜んでいただけました。

しかし、愛着と未練……。退社後一カ月間は、それは淋しい気持ちがありました。

ふと、黒田先生に昔いただいたご本の一節を思い出しました。これは、ある一禅僧の言葉です。

『人の世は微妙なり。ある時期は大いに有用であり役立つ

た人物でも、その時期が過ぎ去ると新しい時期に移れば、もう用をなさぬもの。四季の衣服に似たり。春は春衣。季節季節に用をなす。四季は毎年相似たり。人相同じからず』

まったく思いました。今は心も落ち着き、収入も大事ですがそれ以上に、意義ある人生を過ごすために、武士は食わねど……の精神で、自責し、己を厳しく律して参らねばと思っております。

かつて先代社長にこんなふうに教えをいただいたことがあります。

「君は小学校卒だね。それはそれで良い。でも人並ではない

けない。この訓を基とせよ。

貧富貴賤は天命で有つて神道に立つ。繁栄は祖先の余慶と伝統の厚恩による。これを忘れることなく忠勤せよ。利欲の私道を絶ち、かたく義理の本心を守りて立てるならば、富貴決して偶然にあらず。

これから余命も、この教えを胸に歩んで参りたいと思ひます。

黒田先生には長年、兄弟共々たいへんお世話になりました。まだ一人、傾奇者かばきが残っております。かぶき者を指導することは不可能といいますが、しかし、だからこそお

もしろい存在なのかもしれません。どうぞよろしくお導きのほどをお願い申し上げます。

